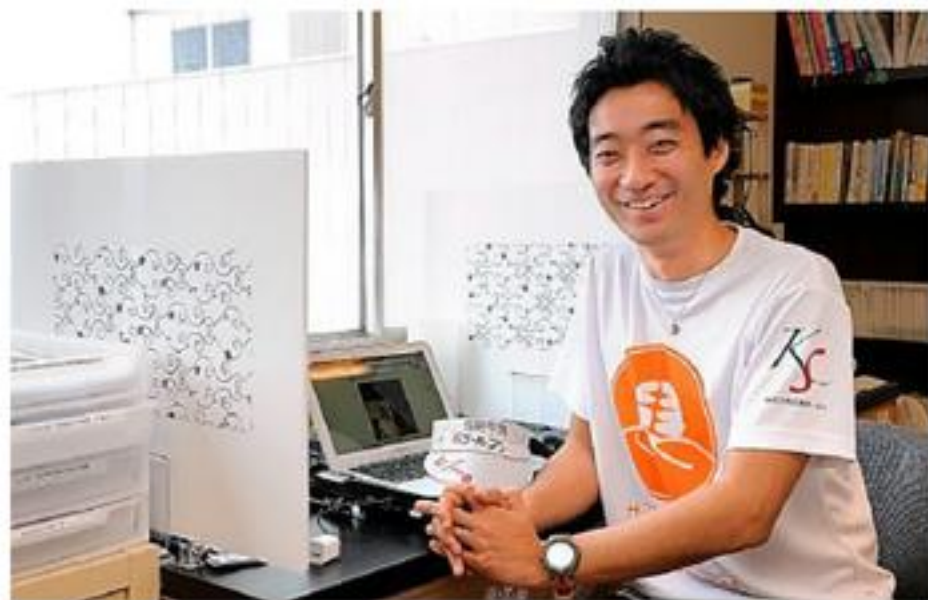


挑む!

認定NPO法人理事長

今井 紀明さん(31)

人質体験乗り越え 生徒支える



2004年、高校卒業直後にイラク戦争での劣化ウラン弾の被害を知ろうと、イラクに渡った。武装勢力に拉致され人質に。武装勢力は駐留中の自衛隊の撤退を要求。当時の日本政府が拒否し、「自己責任論」が噴出した。

北海道の実家には中傷の手紙が山ほど届いた。歩いていて突然、殴られたことも。英国に逃れたが、そこでも顔は知られていた。1年で帰国したが、心的外傷後ストレス障害（PTSD）と対人恐怖症に悩まされた。

札幌市出身。2012年に1人で大阪市内で「DXP」を立ち上げた。今は、正職員6人を含むスタッフ16人、ボランティア約180人で運営。

06年、高校の恩師の勧めで九州の大学に進学。中傷の手紙を送ってきた人に直接連絡をとり、自己責任論と向き合った。イラクに渡った理由を理解してもらったことなどで対人恐怖症を克服していった。12年、NPO法人「DXP」を立ち上げ、定時制や通信制の高校生らの支援を始め、15年には大阪市の認定NPOの指定を受けた。

活動の柱は、授業で学生や社会人が自身の失敗談やつらい体験を語ること。授業後も部活やインターンで生徒と関係が続くことが多く、何でも話せる年長者の存在が生徒の支えとなる。今年4月、砂漠を250⁺走るサハラマラソンに出場する。何歳になっても挑戦できると身をもって証明したくなったからだ。「失敗してもやり直して、5大陸マラソンを制覇します」

文・後藤泰良 写真・滝沢美穂子

記者から

周囲への感謝を忘れぬ好青年。2⁺走って筋肉痛になったのは過去のこと。砂漠を駆け抜けろ!